

その時私たちはどのように行動するのか

～ 大阪北部地震の教訓 ～

6月18日(月)午前7時58分ごろ、大阪府北部を中心とした震度6弱(京都市は震度5強)の地震が発生し、各地に大きな被害が出ました。特に、高槻市では登校中の小4女児が小学校プールのブロック塀の倒壊に巻き込まれ死亡。また、大阪市東淀川区では子どもたちの見守り活動に向かう途中の80代男性が住宅のブロック塀の倒壊に巻き込まれて死亡という、まさに学校に関連した痛ましい事故が起こりました。

本校も登校時間帯ではありましたが、幸いけが人等もなく、臨時休校で生徒を下校させた後、校舎内外をすべて点検しましたが、昨年の長寿命化工事できれいになった壁面の塗装に若干のひび割れがみられた程度で損傷といったものではありませんでした。

阪神淡路大震災以降、新潟県中越地震、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)、熊本地震と各地で大きな地震が度々おこっています。統計によると震度6以上の地震は1年に2回ほど発生しているそうです。そして、それらの経験を通して私たち自身の地震に対する備え(防災意識)も着実に高まってきました。しかし、人間というものは「喉元過ぎれば熱さを忘れる」というところがあり、阪神淡路大震災から23年、時間の経過とともに薄らいできた教訓や防災意識を今回再び思い起こす機会となってしまいました。

特に、ブロック塀の危険性は以前から指摘されていたところです。過去の苦い経験から建築基準法令が見直され、高さ制限の引き下げなど規制が強化されました。また、学校の耐震化も子供たちが日中の大半を過ごす場所という理由から優先的に進められてきました。文部科学省の調査では、公立小中学校の98.8%で耐震化が完了しているとのことでした。



それでもおこった今回の事故をどうとらえればよいのでしょうか。ブロック塀がたまたま安全対策の死角になっていたのか、あるいは、そこに財政的な事情があるのか。いずれにしても、人の意識がそこに向かないと、時間があってもお金があっても事の解決には向かいません。「天災は忘れた頃にやってくる」「備えあれば憂いなし」とよく言います。また、地震の際は「落ちてこない、倒れてこない場所にすぐに避難する」という鉄則も頭にはあるはずです。今回の地震は、私たちのその度に繰り返される「教訓」の受け止め方について改めて考えさせられ、登下校時に、学校内で、そして日常生活で起こった時、私たちはどのように行動し、そのためにどのように備えておくのかについて再確認する必要性を感じた出来事でした。



生徒の 生徒による 生徒のための 生徒大会

～ 西ノ京中生としての新たな自覚 ～

6/7(木)5・6限に生徒大会を行いました。西ノ京中の生徒としての自覚を持ち、生徒が一丸となって目標に向かって着実に取り組み、互いに尊重し合い高め合う生徒会を目指して、年に1度の生徒全員で行う会議で



す。昨年度の生徒会活動を振り返り、今年度の目標や取り組み内容等の方向付けを各委員長が説明します。それに対する質疑応答の時間には各学級で検討した意見や質問を代表が全員の前で発表してくれました。たとえば「他学年との交流を深めたいのでそのような場がほしいです。また、生徒一人一人の意見をもっと共有することができるようにしたいです。」という質問・意見に対して、「随時考えていきたいと思うので皆さんの意見をたくさんください。意見を出しやすい環境も必要なので、意見BOXを作ったり、アンケートの実施なども積極的に考えていこうと思います」とい



う回答がありました。その後、活動方針や決算報告・予算案を拍手で承認し、さらに各学級で検討した学校に対する要望の発表に対して先生方に回答してもらいました。最後に、各学年目標や学級目標の発表がされました。1組を皮切りに、一生懸命制作した学級旗を広げて、そのデザインの意図なども織り込みながら工夫を凝らし、堂々と発表してくれました。

また、今年度の生徒会スローガン「**成** ～咲かせよう 西ノ京のブルーローズ～」【「成」と書いて「じょう」と読みます】が正門から見える校舎の上に掲げられていますが、このスローガンについて生徒会長は大会冒頭で次のように説明してくれました。

『これには、全校生徒があきらめない心や挑戦する心を持って、どんな大きな壁が立ちかはだかろうとも、最後まであきらめず乗り越えてほしいという願いが込められています。ブルーローズはその名の通り「青いバラ」です。バラには赤や白など様々な色があり、品種改良により黄色のバラなども作られましたが、青いバラだけは作れず、ブルーローズは「不可能」の象徴と言われるようになりました。しかし、研究者たちのあきらめない心や熱心な研究の末、何十年とかかりましたがブルーローズは完成し、「不可能」ではなく、「夢はかなう」ことの象徴と言われるようになりました。ブルーローズを咲かせた研究者たちのように、西ノ京中学校の全生徒にも目標に向かってあきらめず、夢や目標を達成してほしいという理由からこのスローガンは作られました』

そんな思いのこもったスローガンをことあることに見上げて、一人一人の心の中にしっかり取り込んでほしいと思います。



休日参観で まるごと公開！

6/10(日)休日参観を実施いたしました。当日は雨交じりの天候にもかかわらず、家庭数でいうと7割を超える数の保護者・ご家族の方に参観していただき、お仕事の都合等で平日はなかなか見ていただけない方にとって、昨年の長寿命化工事でリニューアルした校舎も含め、西ノ京中学校をいろいろな側面から観ていただく良い機会になったのではないかと思います。昨年は教育課程・進路説明会と授業参観が並行して行われている時間帯がありましたので、今年は午前には授業参観、午後からは説明会と部活動保護者会・見学会に時間帯を分けて実施しました。授業参観は教科ばかりでなく、学級担任による道徳の授業も観ていただきましたが、日常の担任と生徒との関係の中でくりひろげられる道徳の授業は、教科の授業とはまた一味違った面白さを感じていただけたのではないかと思います。当日は保護者アンケートも実施し、授業や学校全体、また教職員の様子についてなど、貴重なご意見もいただきました。それらを活かしながら、よりよい学校をめざして今後とも取り組んで参りたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

また、当日朝早くから、受付や自転車整理などで、PTA役員や多くの保護者の方々にご協力いただきました。本当にありがとうございました。



校内授業研究会 ～小学校の先生とともに学ぶ～

6月14日(木)、本校教員の授業改善・授業力向上に向けた授業研究会を行いました。今年度からは、よんきゅう絆プロジェクト(4中9小の小中一貫教育)としても位置づけ、西ノ京中ブロックの朱二・朱六・朱八の3小学校からほぼすべての先生に参観していただき、中学校教員の司会進行のもと、グループに分かれ「言語活動と9年間の学び」をテーマに研究協議を行いました。小学校の先生からは「自分が受けた中学校の授業とはずいぶん変わっていて驚いた」との声も聞かれ、今の中学校の様子とともに、中学生の学びの姿と成長を見ていただけたのではないかと思います。また、中学校にとって小学校の先生の意見は新鮮で、より研修が深まる機会となりました。

